

# TOSHIBA

東芝インフラシステムズ株式会社  
府中事業所

# 環境報告書 2020

調和から貢献へ 一歩進んだエコファクトリー



1. ごあいさつ	2
2. 事業所の概要	2
3. 環境マネジメントシステム	3
4. 環境配慮型製品の紹介	5
5. 環境目的と目標	8
6. 事業所における環境活動	9
7. 環境負荷データ	12
8. 環境会計	13
9. 法令の順守	14
10. 環境意識の維持向上	16
11. 生物多様性保全	17
12. 地域との協調(環境コミュニケーション)	20
13. 取り組みのあゆみ	22

### 編集方針

この環境報告書は、当事業所の2019年度の環境保全への取り組み(一部2020年度を含む)と成果を中心にまとめました。

記載内容は、環境省「環境報告書ガイドライン(2012年度版)」を参考にしましたが、わかりやすさを目指し写真や図表を用いて、独自性を加えています。

### 対象範囲

この環境報告書は、ISO14001に基づいて一体活動を行う審査登録範囲と同じ「東芝インフラシステムズ(株)府中事業所」を報告対象範囲とし、事業所内の関係・協力会社及び独自事業会社を含みます。ただし、独自にISO14001に基づく活動を行っている東芝エレベータ(株)、東芝ITコントロールシステム(株)、東芝プラントシステム(株)、東芝イーアイコントロールシステム(株)は含みません。

### SDGs(持続可能な開発目標)とは

SDGsとは、2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。

持続可能な世界を実現するための17のゴール・1169のターゲットから構成されています。

### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



## 1. ごあいさつ

東芝インフラシステムズ株式会社 府中事業所では社会インフラを支える製品を数多く提供することと、事業プロセスに於ける環境負荷の低減を両立させていくことが、取組むべき重要な責務です。持続可能な社会の実現に貢献するため、製品の環境性能向上に注力し、地球温暖化防止や資源の有効活用を意識して、循環型社会の構築を進めています。

さらには、「調和から貢献へ一歩進んだエコファクトリーとして、社会から信頼される事業所」を目指し、府中地区全体の緑のネットワーク構想に貢献する活動を行っていきます。

東芝グループスローガンである『人と、地球の、明日のために。』を心に、地球内企業の一員としての自覚を一人ひとりが持ち、周辺地域や行政、企業の皆様、及び当事業所従業員に、安心・信頼される事業活動を行っていきます。

2020年 12月

東芝インフラシステムズ株式会社

府中事業所

環境保全責任者

所長 細井 昌一



## 2. 事業所の概要

設立 : 1940年  
所在地 : 東京都府中市東芝町1番地  
敷地面積 : 655,000m<sup>2</sup>  
建物延面積 : 394,000m<sup>2</sup>  
従業員数 : 9,290人(2020年4月現在)  
(関係・協力会社、独自事業会社含む)



府中事業所



柏崎工場

所在地 : 新潟県柏崎市大字軽井川931番地21 他  
敷地面積 : 約47,000m<sup>2</sup>  
建物延面積 : 約10,600m<sup>2</sup>  
従業員数 : 178人(2020年4月現在)

### 3. 環境マネジメントシステム

#### 環境方針

東芝グループは、環境への取組を経営の最重要課題の一つとして位置づけ、環境経営を推進しています。また「経営理念」に沿って、環境に関する具体的な考え方を示した「環境方針」を定め、グループ全体で共存しています。

#### 府中事業所 環境保全基本方針

府中事業所は、社会インフラを支えるエネルギー、交通、放送・通信、水・環境の分野で、安心・安全・快適な社会を支える環境調和型の製品・システム・サービスを提供し、新たな価値を創造していきます。21世紀に新たに発展していく企業として“かけがえのない地球環境”を健全な状態で次世代に引き継いでいくことは、現存する人間の基本的責務との認識に立ち、「調和から貢献へ一歩進んだエコファクトリー」を目指し、脱炭素社会、循環型社会、自然共生社会を目指した環境活動により、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に貢献し、将来を見据えた環境技術の開発に努めます。

- 1、環境保全への取組みを事業所経営の最重要課題の一つとして位置付け、環境活動を通じ環境パフォーマンスの継続的な改善・向上に全員で取り組みます。環境側面について生物多様性を含む環境への影響を評価し、環境負荷の低減、汚染の予防等に関する環境目標を設定して、環境保護を推進します。
- 2、事業プロセスにおいて、次の環境配慮活動に取組み、汚染の予防及び持続可能な資源の利用に努めます。
  - (1) 生産設備、動力供給設備等に使用する電気・ガス等削減による  
CO<sub>2</sub>排出量の抑制
  - (2) 廃棄物総発生量の削減による資源の有効活用推進
  - (3) 化学物質取扱量の管理と排出量の削減による環境負荷低減
  - (4) 資材調達先に対する環境評価・指導実施によるグリーン調達推進
- 3、環境保全に関する法令・協定等、当事業所が同意したその他の要求事項に立ち、より厳しい自主基準を設けて管理します。
- 4、信頼されるパートナーとして地域・社会、取引先との協調・連携により環境活動を通じて社会に貢献します。
  - (1) 取引先に対して指導・支援を行います。
  - (2) 相互理解の促進のために、積極的な情報開示とコミュニケーションを行います。
  - (3) 地域社会の環境活動に参画・協力します。



2019年4月1日  
府中事業所 所長

細井 昌一

「環境スローガン」

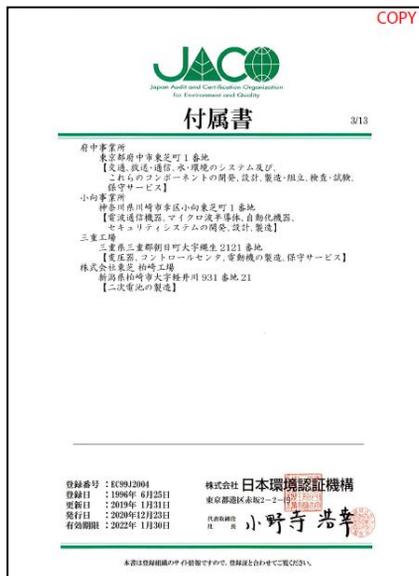
調和から貢献へ

一歩進んだエコファクトリー

# ISO 14001

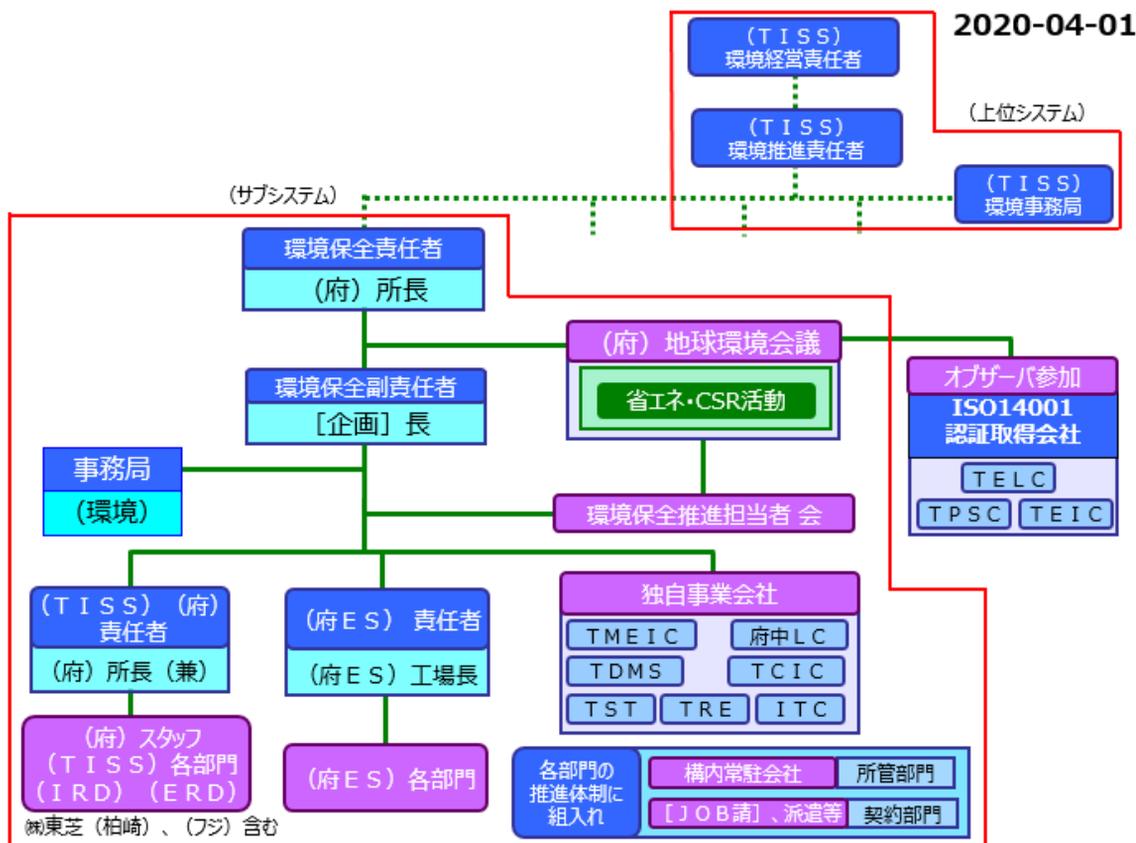
1996年に府中事業所として単独に取得後、2008年に東芝インフラシステムズ株式会社と統合して継続認証を受け、サブシステムとして2017年度より2015年度版で受査しました。環境マネジメントシステムのPDCAサイクルに則り、継続的な改善を推進しています。

また、府中事業所では、環境マネジメントシステムの運用にあたって、諸手続きを電子化し、効率化を図っています。



## 環境保全体制

府中事業所長[略:(府)所長]を環境保全責任者として、以下の体制で活動しています。



## 4. 環境配慮型製品の紹介



エネルギー 電気を安定して供給するために



発電所の稼働と発電所からユーザーへの電気の供給を最先端の技術で監視・制御するシステムを提供



発電所向け監視制御システム 制御盤



電力系統監視制御システム



交通 スムーズな移動と輸送のために

電気機関車、鉄道車両向けの各種電気・情報システム、空港向け監視制御システムなどを製造  
省エネ鉄道システムや、未来の交通システムを開発



車両情報制御システム



ハイブリッド機関車



永久磁石同期電動機 (PMSM)



空港向け監視制御システム



電車用インバータ



水・環境 大切な水・環境を守るために

上下水道、廃棄物処理などの生活基盤からダム管理まで高度な技術で  
水・環境分野の課題へのソリューションを提供



上下水道監視制御システム



オゾン発生装置



放送・通信・防災 より早く効率的な情報提供のために

マルチプラットフォーム化対応の放送システムを製造  
防災システムや伝送装置で通信インフラの確保に貢献



スタジオ設備



通信設備



水門開閉システム



SNG車載局



受変電システム・産業用システム 社会インフラの安定稼働を支えるために

産業用電気設備や電力供給設備、産業用コンピュータなどの開発・製造から  
保守・点検までを実施



産業用コンピュータ



スイッチギア



プリント基板  
東芝ディーエムエス㈱



太陽光発電用パワーコンディショナ  
東芝三菱電機産業システム㈱

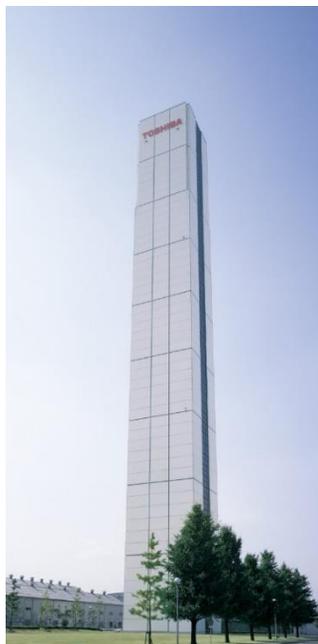


リチウムイオン蓄電システム  
東芝ITコントロールシステム㈱



## エレベーター 快適な移動空間のために

世界最高水準の技術力で、開発から製造・据付・調整・保守サービスまでの一貫体制を構築



フィールド研修センター

エレベーター開発センター

マシンルームエレベーター

東日本サービス情報センター



## 研究開発 未来につなげ、時代を動かすために

エネルギーから情報、セキュリティ、水、交通まで、トータルソリューションを支える技術を研究・開発



分析・シミュレーション  
(鉄道運行制御のレビュー)



試作・性能評価  
(パワーエレクトロニクスの試験評価)



フィールド検証  
(水素エネルギー利活用センター)

## 5. 環境目的と目標

環境へ取り組んでいく基本方針と府中事業所が持つ環境影響を考慮して、6つの環境目的を掲げ、それぞれに1～3項目の具体的なテーマを設定し、改善活動を推進しています。

2019年度の環境目的、環境目標については、全ての取り組みテーマに対して目標値を達成しました。

(評価の凡例  当初目標達成、/  修正目標の達成、又は未達要因は正済、 目標未達)

環境目的	環境目標	実績	評価	
<b>1. 地球温暖化の防止</b>  	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量	総排出量(CO <sub>2</sub> 換算) 36,474 t-CO <sub>2</sub> /年	34,807 t-CO <sub>2</sub> /年	
<b>2. 資源の有効活用</b>  	廃棄物総発生量	総排出量 4,485 t/年	4,448 t/年	
	水資源の有効活用	地下水揚水量※ <sup>1</sup> 285.6 千t/年	283.2 千t/年	
<b>3. 化学物質の管理</b> 	化学物質総排出量	排出量※ <sup>1</sup> 96.6 t/年	74.9 t/年	
<b>4. 取引先に対する環境配慮</b> 	主要協力会社の 総点検実施	17社17工場実施※ <sup>1</sup>	17社14工場実施 (1社廃業、 COVID-19のため 未実施2社)	
<b>5. 環境保全活動の充実</b> 	環境保全システム の点検と向上	部門監査 環境内部監査 ISO審査の実施	部門監査7月 環境内部監査8月 ISO審査11月 リスク診断1月	
	環境教育の実施	7講座以上実施※ <sup>1</sup>	新任管理者研修、 検証員教育など 12講座を実施	
<b>6. 地域との協調</b>   	環境コミュニケー ションの充実	月間行事への参加	地域行事への参加 多摩川清掃 府中環境まつり等	
	自主基準値の遵守	定期測定の実施と 測定値の確認	自主基準値以内	
	地域連携による生 態系ネットワークの 構築	生態系モニタリング 調査の継続※ <sup>1</sup>	親子自然観察会 モニタリング調査	

※<sup>1</sup> : (柏崎)含まず。

## 6. 事業所における環境活動

府中事業所では、事業活動に伴うCO<sub>2</sub>排出量の削減施策として、高効率の空調機／照明設備の更新や太陽光発電設備等再生エネルギーの導入を計画的に行い、地球温暖化対策に取り組んでいます。

また、環境負荷の少ない除草方法の一つであるヤギ・羊によるエコ除草を実施しています。



### 省エネ活動

#### 事例1：変電設備の老朽更新

3307-11変電所の変電設備は老朽化が進んでいた為、高効率トッランナー変圧器を導入することにより安定した電力の供給、省エネ化、メンテナンス性の向上を図りました。

CO<sub>2</sub>削減量： 28.7(t-CO<sub>2</sub>/年) (※換算係数5.31)

#### <更新後>



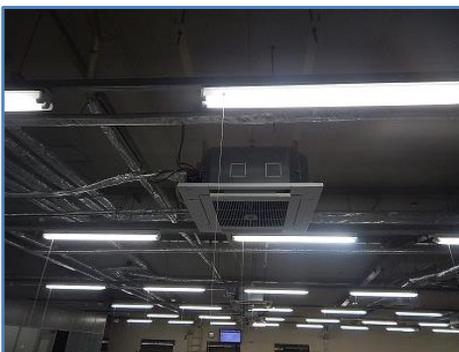
高効率トッランナー変圧器

#### 事例2：空調設備の更新

老朽化が進み低効率のまま運用されていたため、高効率機器への更新を実施し、省エネ化を図りました。(更新実施建屋：43B号館)

CO<sub>2</sub>削減量： 20.7(t-CO<sub>2</sub>/年) (※換算係数5.31)

#### <更新後>



府中事業所では、2015年度から環境負荷の少ない除草方法の一つであるヤギによる除草を行い、環境負荷低減の推進を図っています(Project Goat & Sheep)。2016年度からは羊も導入し、2019年度も5月～11月の期間活動を行いました。(ヤギ3頭、ヒツジ3頭をレンタル)

またProject Goat & Sheepの一環で東京農工大からお預かりしていたヤギが、赤ちゃんを出産しました。

## ヤギとヒツジの特徴

### ヤギ

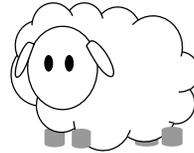
- ◆ 食べ物  
草以外にも木の葉っぱや木の芽を好んで食べる
- ◆ 性格  
好奇心が旺盛・活発・自己中心的・攻撃的(安易に近づくと危険な動物)



植栽を食べてしまう

### 羊

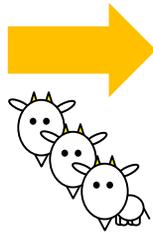
- ◆ 食べ物  
ヤギと違い、草のみを食べる(草以外の食べ物を消化することができない)
- ◆ 性格  
温厚でおとなしい・臆病・優柔不断(ヤギと正反対)



植栽を食べることがなく安心

## 除草効果

府中事業所内の緑地6カ所を、雑草の状況に合わせて移動しながら作業しました(約1カ月毎に移動)



ヤギを3頭放牧



羊を3頭放牧

- ・雑草の種類によるが、繰返し除草を行う事で在来種の再生が期待できる(3～5年の期間必要)
- ・食べた雑草は糞尿により窒素肥料として土壤に還元するとともに、芝や野草の栄養分となることから侵入雑草が減る効果が得られそう
- ・羊はヤギ以上に雑草の低い位置まで食べる
- ・従業員のアニマルセラピー的な副次効果有り

CO<sub>2</sub>削減量 : 507.8(kg-CO<sub>2</sub>/年)

# エネルギー消費量の見える化

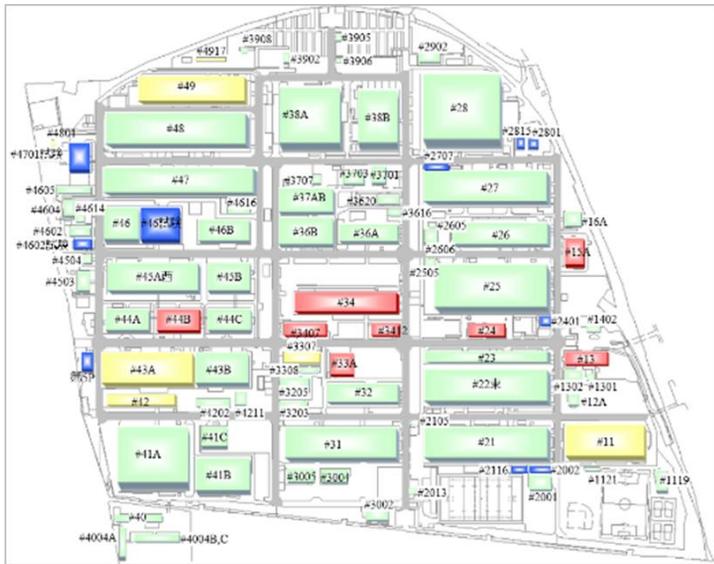
府中事業所は東京都キャップ&トレード制度※の対象事業所となっており、省エネに関する取り組み等により、温室効果ガス(CO<sub>2</sub>)の排出量を削減してきました。

### ※キャップ&トレード制度

東京都が、都内の大規模事業者を対象に2010年4月より始めた、CO<sub>2</sub>排出量の削減のための制度。各企業にCO<sub>2</sub>排出削減量(キャップ)を割り当て、超過すると罰金となり、削減義務以上に削減した余剰CO<sub>2</sub>は超過した企業に売ること(トレード)ができる仕組み。  
トップレベル事業所に認定(認定期間は3年間)されると、削減義務量が半分に軽減され、今後たくさんの余剰CO<sub>2</sub>が確保できる形となります。

「エネルギー使用量の見える化」として、電力監視システム「デマンドEYE」を導入しています。このシステムは、色で建屋ごとの電力消費量を表示することにより、「一目でわかる」ようになっており、事業所内のホームページに掲載されているので、従業員誰でも見えるようになっています。

警告値以下	警告値超過	目標値超過	試験許可中		
<b>電力 水 エアー 蒸気</b>					
(府)全体 建屋マップ 建屋別 階層 個人環境設定 管理者権限 CO <sub>2</sub> 排出量 太陽光発電					
建屋	使用率	目標(kw)	電力(kw)	気温(°C)	湿度(%)
(府)全体	77.7%	23,000	17,871	30.5	64.7



事業所建屋MAP(電力)

建屋グループ	瞬時値	建屋別	1H	状態	試験	電力(kw)	目標(kw)	警告(kw)
#11		#11		97.6%	---	829	850	807
#13		#13		104.4%	---	151	145	137
#1302		#1302		29%	---	51	222	210
		#1119						
		#1121						
		#12A						
		#1301						
#2001	サブテナント							
#1402		#1402		62%	---	12	20	20
#15		#15A		113.4%	---	210	185	175
#2002		#2002		668.2%	許可中	334	50	50
#21		#21		80.6%	---	524	650	618
		#2105						

建屋毎の電力消費量詳細(電力)

また、電力ピークカット、CO<sub>2</sub>排出量削減を目的に、太陽光発電を導入しており、脱炭素社会を目指す環境価値としてのPRを検討中です。

## 7. 環境負荷データ（府中事業所のみ）

事業活動は、エネルギーや化学物質の使用、水や廃棄物の排出を伴います。これらの環境負荷を数値（指標）としてとらえて、私たちが環境に与える負荷をできるだけ少なくするよう、改善活動を行っています。

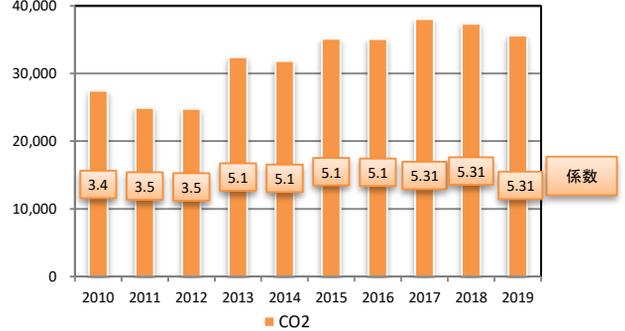
[CO<sub>2</sub>排出量は係数変更による影響あり]



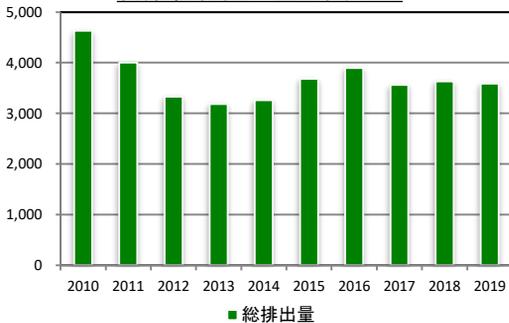
エネルギー使用量(単位:KL)



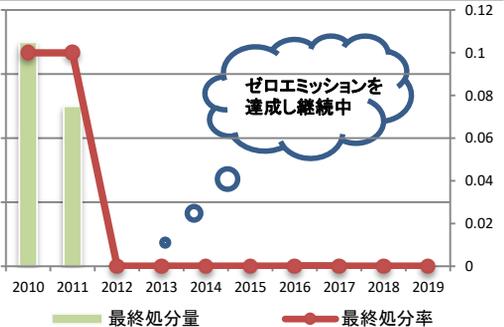
CO<sub>2</sub>排出量(単位:t-CO<sub>2</sub>)



廃棄物総発生量(単位:t)

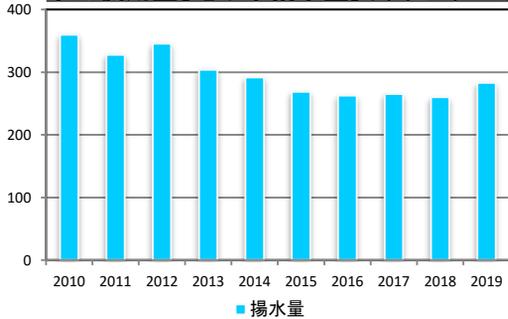


廃棄物最終処分量(単位:t)と最終処分率(%)

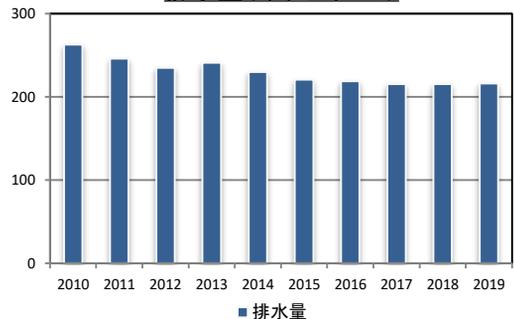


主な廃棄物名: 金属、紙屑、プラスチック、木屑、污泥等

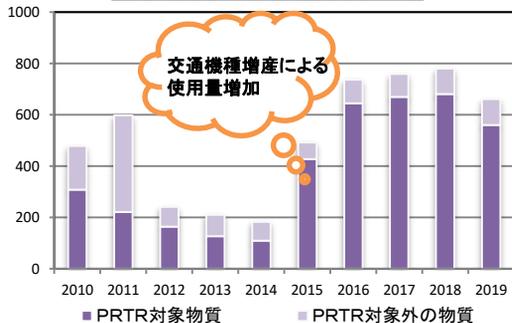
水の使用量[地下水揚水量](単位:千m<sup>3</sup>)



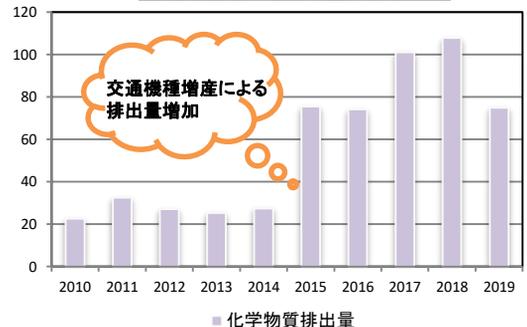
排水量(単位:千m<sup>3</sup>)



化学物質の取扱量(単位:t)



化学物質の排出量(単位:t)



主な化学物質名: テトラヒドロメチル無水フタル酸、1-ブロモプロパン、硫酸、塩化第二鉄、トルエン、キシレン

## 8. 環境会計

府中事業所事業所では、事業活動の中で環境保全のために投じた費用と、その効果を定量的に把握しています。



[概念] 公害防止・地球環境保全・資源循環他の取り組み。

[定義] 環境対策にかけたコストとそれに伴う効果を定量的(金額)に表したもの。

[目的] 環境保全活動を定量的に把握し、企業活動の指針として活用する。



### 環境保全活動コスト(環境保全のための投資額及び費用額の前年度比)<sup>※1</sup>

分類	内容	投資額	前年比
事業エリア内コスト	公害防止コスト(点検・更新等)、地球環境保全コスト(設備更新)、資源循環コスト(廃棄物管理他)	714	-1,187
上・下流コスト	グリーン調達・購入	0.8	0
管理活動コスト	監視・教育・自然保護など	155	-9.9
研究開発コスト	環境調和型品開発など	835	569
社会活動コスト	環境保全団体支援・情報開示など	2	-0.2
環境損傷コスト	大気賦課金・土壌汚染修復など	0.3	0
	合計	1,707	-628

[単位：百万円]



### 効果<sup>※2</sup>

分類	内容	総支払額	前年比
エネルギー	電気、ガス、軽油等使用料金等	1,307	100
廃棄物	廃棄物処理委託費用等	32	-7
水・大気	下水道料金等	34	-1
	合計	1,373	92

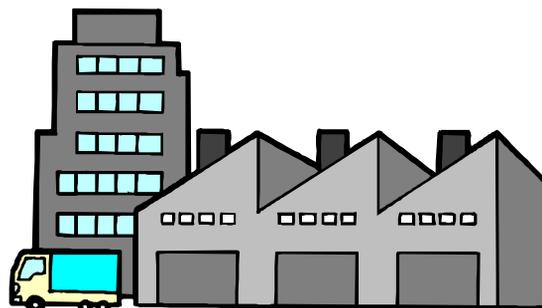
[単位：百万円]

### (詳細説明)

※1: 事業活動に起因する環境への負荷を抑制すること等を目的としたコスト及びこれに結びついたコストです。

※2: 電気料や水道料等の削減で直接金額表示できるもの。

大気汚染防止法及び下水道法に定める物質は、規制値より厳しい自主基準値を定めて管理を行っていますが、規制値内でも、環境に与える負荷を継続的に改善していくための指標として、東芝グループ独自の基準に重み付けを行っています。



- ◆ 集計期間: 2019年4月1日～2020年3月31日
- ◆ 集計方法: 「環境会計ガイドライン」(環境省)及び東芝グループ独自基準

## 9. 法令の順守

法令の順守は最低限の責務と考え、より厳しい自主管理値を設定して管理しています。

また、設備導入時などには事前評価を実施して、法令に基づく確認を行っています。



### 大気測定結果〔貫流ボイラー(都市ガス)38A号館2缶、49号館3缶※〕

	法規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
NOx(ppm)	対象外	52	20~43*	年1回
SOx(Nm <sup>3</sup> /h)	対象外	対象外	対象外	対象外
ばいじん(mg/Nm <sup>3</sup> )	0.1	0.025	<0.001未滿	年1回

〔※小型ボイラーの為、参考値。〕

### 排水測定結果 (総合排水監視施設) 公共下水道へ放流(北多摩一号水再生センター)

	府中市規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
水素イオン濃度(pH)	5.7~8.7	6.0~8.5	7.0~8.2	週1回
SS(mg/l)	300	250	14~190	週1回
窒素(mg/l)	120	90	5.7~65	週1回
鉛(mg/l)	0.1	0.05	<0.01未滿	週1回

### 騒音・振動測定結果(騒音特定施設:機械プレス他、振動特定施設:機械プレス他)

	測定場所:時間	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
騒音(dB)	敷地境界:朝	60	57	44~45	年1回
	敷地境界:昼	70	67	43~53	
	敷地境界:夕	60	57	39~43	
	敷地境界:夜	55	52	39~42	
振動(dB)	敷地境界:昼	65	60	<30未滿~40	2年1回 (2020年2月測定)
	敷地境界:夜	60	55	<30未滿~35	

### その他測定結果(基板製造工程排水)

	府中市規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
水素イオン濃度(pH)	5.7~8.7	6.0~8.5	6.9~7.3	年2回
SS(mg/l)	300	250	12~24	年2回
ホウ素(mg/l)	10	5	0.03~0.10	年2回

### 環境事故・指導指摘・苦情の有無

	状況
環境事故発生の有無	なし
工場周辺や地域での環境問題発生の有無	なし
行政からの指導・指摘の有無	なし
近隣住民からの苦情の有無	なし

## 環境監査

府中事業所では、定期的に環境保全活動や順法管理・現場管理などが適切であるかを、社内及び第三者による監査にて確認しています。また監査結果は、環境ニュースや環境掲示板などに掲載し、従業員の環境意識向上に努めています。

### 部門監査

実施時期：2019年7月3日～24日

ISO14001に規定されている監査であり、府中事業所内有資格者が監査団を形成し各部門の環境マネジメントシステムの有効性確認や、環境負荷が大きい職場については、現場監査を実施しました。

柏崎工場・富士分工場を含む全32部門の監査を実施し、30件の指摘を行い、指摘事項は改善計画書にて全て完了を確認しています。



現場監査風景

### 環境内部監査

実施時期：2019年8月22日（柏崎）：2019年8月20日

（TISS）内の有資格者によって実施され、環境保全責任者インタビューや順法審査、パフォーマンス審査などの書類確認を実施し、その後、選抜された10部門での運用状況について確認しました。

その後の、（TISS）事務局および各事業場等の主任監査員によるレビュー会議にて、府中事業所は観察事項1件、推奨事項1件となりました。



監査風景

### （TISS）環境リスク診断

実施時期：2020年1月23日、24日

（柏崎）：2020年2月26日、27日（フジ）：2020年3月2日、3日

2016年度まで、(株)東芝[環境]主催で実施していた「東芝総合環境監査(サイト監査)」の機能は、新分社会社に委譲されました。これに伴い、(TISS)では常態からの変化点(リスク)を想定したチェックをすることに重点を置いた「環境リスク診断」を実施することになりました。

初日に施設管理状況、2日目に順法対応状況の確認が行われ、その結果特段のリスク懸念事項は無く、施設のリスク評価(まとめ)について、偶発的なリスク:2件、日常的なリスク:9件、低リスク:10件のアドバイスがありました。



施設診断風景

### ISO14001 1年次サーベイランス審査

実施時期：2019年11月13日、14日

外部審査機関によるISO14001に規定に基づく審査で、システム監査では「東京ゼロカーボン4デイズ in2020」への協力や生物多様性保全活動、関連する順法状況、各部門監査では戦略マップと連動した本来業務での取り組みや成果等について受査しました。

監査員からは、高濃度PCB全廃、東京ゼロカーボン登録、各部門での本来業務の取り組みを好事例として取り上げて頂きました。



監査風景

## 10. 環境意識の維持向上

社内WEBの環境掲示板に、最新の環境ニュースやモニタリング調査の結果など環境情報を掲示し、敷地境界清掃活動などを実施し、従業員の環境意識の維持・向上を図っています。



### 環境掲示板

私たちの環境保全活動をお知らせする情報を、ホームページや環境ニュースで従業員に発信しています。



### 敷地境界清掃

府中事業所 製造長会では、自主的な美化活動として2002年から敷地境界線の歩道清掃を実施しています。(2019年度は、9月に実施)



生活用通路の清掃



収集したゴミ



集合写真

## 11. 生物多様性保全

府中事業所のある東京都府中市は、多摩川と、昔の多摩川の名残りとも言われる野川の間にある水と緑の豊かな街です。遥か昔は武蔵国（現在の東京、埼玉、神奈川の一部）の中心である国府が置かれ、江戸時代は宿場町としても栄えた街です。

川や都立公園に囲まれた府中事業所には、たくさんの草花や小鳥が生息しています。より多くの動植物が息づく環境を目指し、地域連携による生態系ネットワークの構築を進めています。



断面図で見ると、昔の多摩川の流れが作った、国分寺崖線と立川崖線（府中崖線）があり、その下側からはあちこちに湧水が見られます。その湧水の一部は、府中用水として田畑を潤しています。

このエリアには、樹林や河川、田んぼや果樹園もありますが、最も多いのは住宅地や工業用地です。工場や学校がたくさんあることから、“緑の核”と“緑の核”をつなぐ、企業・学校ビオトープネットワークの構築が可能です。府中事業所が積極的にビオトープ情報を公開している理由も、ここに 있습니다。

### 府中エリアの断面図（イメージ）



事業場敷地内において、地域の自然と調和する事業所を目指した事業場の森づくり「**武蔵野の森再生**」を進めています。

◆基本計画

- 1) 地域本来の樹種を植樹・・・府中事業所が立地する地域(武蔵野)の植生を調査し樹種を選定し地域本来の植生種での森づくりを推進。(シラカシ、アラカシ、コナラ、エノキ、クヌギ、ケヤキ、ムクノキ等)
- 2) ビオトープ(水系)の構築
- 3) 植樹後の成長量、生態系をモニタリング・・・植樹した木々の成長状況や動植物に関する調査を継続的に実施し、事業所の森に生息する鳥類、昆虫類、植物を指標種として選定し、地域本来の生態系に近づいているかモニタリングを実施。
- 4) 地域の皆様と従業員による森づくり・・・従業員が主体となり、植樹場所の整備を行い、従業員の家族や地域の皆様とともに植樹、整備、観察を実施。



水系ビオトープの設置(2012年3月設置)

カルガモも  
休憩していきます



2012年3月



2013年3月



2014年3月

植樹イベント(本宿小5年生と共に実施)

生物多様性調査

2011～2012年にかけて、専門家による調査を元に指標種2種を選定(ウマノスズクサ、ショウリョウバッタモドキ:共に絶滅危惧Ⅱ類)しました。

ウマノスズクサは、ジャコウアゲハの幼虫が食草とします。



卵



幼虫



さなぎ



成虫(♂)

ジャコウアゲハの成長過程

## 府中事業所の生態系



### 構内生物種調査結果

- ・ 植物: 368種
- ・ 動物: 6種
- ・ 鳥類: 41種
- ・ 爬虫類: 2種
- ・ 昆虫: 475種
- [合計] 892種



### 東京都レッドリスト該当種

- ・ 植物: 3種
- ・ 鳥類: 15種
- ・ 爬虫類: 2種
- ・ 昆虫: 8種
- [合計] 28種



府中事業所の生態系ピラミッド



## 生物多様性モニタリング調査

自然観察指導員を中心に、モニタリング調査を毎月実施し、生態系の変化を記録しています。調査結果は、環境ニュースや環境掲示板に掲載しています。



野鳥観察



バードフィーダ作成



カントウ・セイヨウタンポポ分布マップを作成

また、東芝インフラシステムズ株式会社ホームページの生物多様性への取り組みページ内に「府中事業所いきもの図鑑」が掲載されており、事業所内に生息する動植物の写真や動画を見ることができます。  
 [東芝インフラシステムズ株式会社ホーム > 企業情報 > 環境活動 > 環境マネジメント > 生物多様性保全 > 府中事業所いきもの図鑑]

東芝インフラシステムズ株式会社  
 府中事業所いきもの図鑑

府中市は、東京都のほぼ中央に位置する都市です。たくさんの川や湧水、公園がある、自然環境に恵まれたエリアにあります。その府中市にあり、設立後70年になる府中事業所に、どんな生き物が生息しているか調べてみました。

府中エリアの紹介  
 府中事業所のある北多摩地区を見てみると、北を流れる野川、南を流れる多摩川の間に、大きな緑地が点在していま

府中事業所いきもの図鑑

## 12. 地域との協調（環境コミュニケーション）

府中事業所では2008年4月に、「府中市まちの環境美化条例」に基づき、市との環境美化協定を締結しました。これを機に、市内環境美化活動へ積極的に参加しています。



この他、地域住民の方々に対する展示会、近隣小学校PTAを支援した防災キャンプなど、地域協調活動範囲を広げています。これらの活動を通じ、行政や地域住民の方々とコミュニケーションを深めると共に、事業所の環境への取組みをアピールしています。

### ＜行政との協働＞

ごみ減量・リサイクル・啓発活動を目的とした地元NPO団体（府中リサイクル推進協会）会員として、地元行政と連携しながら各種地域行事に参画しています。



府中環境まつりに参加

### ＜地域住民活動への参加＞

府中市主催清掃活動への参加や、事業所周辺の清掃活動等を継続的に実施しています。

## 親子自然観察会



開催日：2019年7月21日

従業員とその家族を対象に、自然観察会を実施しました。当日は17名の方に参加いただき、プロ・ナチュラリスト（プロの自然解説者）の佐々木洋さんを講師とした植物や昆虫にまつわるクイズなど、自然解説を聴講。更に参加者から好きな動物などの名前を出してもらい、それについて佐々木さんより解説していただきました。

ビオトープでは、昆虫や植物の生態を佐々木さんによる豊富な知識とジョークを交えた解説を聞きながら散策しました。また、#15A南側に設置したバナナトラップとライトトラップを確認し、トラップにかかっていた昆虫を捕まえたり、セミの羽化も確認することが出来ました。



プロ・ナチュラリスト 佐々木 洋さん



セミの羽化



ビオトープ周辺で自然観察会



集合写真

## 防災キャンプの段ボール提供（府中第6小学校）



開催日：2019年8月24日、25日

毎年行われています府中第6小学校の防災キャンプに、府中事業所よりダンボール約250枚を提供しました。ダンボールの提供は東芝環境ソリューション㈱の協力により、今年で16年目になります。

今回も東芝グループの「おやじの会(第6小PTA)」の5名と環境担当にて、回収したダンボールの留め金具や伝票等を外して安全点検を実施し、小学校へダンボールを搬入しました。

防災キャンプでは、ダンボールを使って小学生児童が時間いっぱいまで思い思いの“自分たちの家”を作成して、避難所を想定した就寝体験をしました。



留め金具・伝票外し作業



ダンボールの家(寝床)づくり

## 地域住民、行政(府中)、事業者の協働を通じた地域協調活動を目指しています



多摩川清掃市民運動



府中環境まつり出展



浅間山保全活動

## 柏崎工場のCSR活動



柏崎工場(新潟県柏崎市)でも近隣での森づくりボランティア活動、敷地境界清掃等年間を通してCSR活動を実施しています。また、アゲハ蝶を呼ぶために構内にゆずの木を4本植樹しています。

柏崎・夢の森公園での森づくり活動では、大切な里山の環境を守り次世代へ引き継ぐため、林内の手入れ・水辺の手入れなど、雪のない4月～11月に参加しています。

### 森づくり活動



4月 西の丘エリアの落ち葉かき



6月 カキツバタ株分け



9月 カキツバタの種まき



9月 ゲンジボタルエリアの除草

### 13. 取り組みのあゆみ

私たちは、操業開始時より、公害防止活動はもちろん、みどり豊かな工場づくりなど、地域環境への取り組みを進めてきました。

1940	事業場設立
1983	府中市と環境保全協定を締結
1989	環境保全担当グループを発足
1990	東芝社内環境監査開始
1991	リサイクルセンター設置
1994	(府)環境ニュース発行開始。ODS(オゾン層破壊物質)全廃
1996	ISO14001認証取得
1997	事業所内での焼却を廃止。関東地区 電気使用合理化活動 最優秀賞 受賞
1998	緑の都市賞 建設大臣賞 受賞 再資源化事業等表彰 (財)クリーン・ジャパンセンター会長賞 受賞
2001	環境保全基本方針を刷新 『「調和から貢献へ一歩進んだ製品提供」と「環境ソリューションを実践するエコファクトリー」』へ
2002	「IEGT応用電力変換装置」が資源エネルギー庁長官賞 受賞
2003	「快適空調制御システム」が省エネルギー優秀事例全国大会経済産業大臣賞 受賞 廃棄物ゼロエミッション達成
2004	環境調和型製品「SIS(固体絶縁スイッチギヤ)」が「オーム技術賞」、「大河内記念賞」受賞 平成16年度省エネルギー優秀事例全国大会「優良賞」受賞
2005	リデュース・リユース・リサイクル推進協議会「会長賞」受賞 PRTR大賞「奨励賞」受賞、電気使用合理化「最優秀賞」受賞
2006	東京都リスクコミュニケーション事例報告会に参加
2007	公園整備(エコ広場)
2008	府中市と環境美化協定を締結。東京都より地球温暖化対策の活動が表彰
2009	東京都リスクコミュニケーション推進セミナーに参加。(府)環境スローガンを作成
2010	東京都「地球温暖化対策計画書制度」において「AAA評価」優秀事業者表彰を受賞 太陽光発電実証設備(建家)竣工
2011	府中市エコ博にて「環境保全活動の取組」を紹介
2013	技術・環境管理担当として、活動を継続
2014	府中市制施行60周年記念顕彰式で環境保全活動が表彰 地球温暖化防止活動環境大臣表彰:対策活動実績・普及部門を受賞
2015	水素エネルギー研究開発センター開所 ヤギによるエコ除草を実施
2016	ヤギと新たに羊を加えエコ除草を実施
2017	水素エネルギー利活用センター開所
2018	東京都トップレベル事業所(優良特定地球温暖化対策事業所)認定
2019	府中事業所で創出されたCO2削減クレジット50,000 tを東京都に寄付



写真は  
(表紙)府中事業所内で撮影された「動植物」  
(裏表紙)府中事業所の「ヤギと羊によるエコ除草」です

## 東芝インフラシステムズ株式会社 府中事業所

企画・管理部 環境管理担当

〒183-8511 東京都府中市東芝町1

TEL (042) 333-2313

FAX (042) 340-8025

本報告書の内容や、府中事業所の環境保全活動に関するご意見、ご質問などは、上記担当までお問い合わせください。